

持続可能な富士見町を目指して

SDGs・ゼロカーボン特集

写真：第8回・第9回 富士見の日 フォトコンテスト
佳作「蝶の楽園」 佐川隆博

☎ 総務課 企画統計係 ☎62-9332

持続可能な Sustainable Development Goals



SDGs (持続可能な開発目標) とは、【地球上の誰一人取り残さない】社会の実現を目指し、環境保全や貧困・飢餓の撲滅、男女平等など17の目標と169のターゲットを定め、2030年までの達成を目指す世界共通の目標です。発展途上国のみならず、先進国を含む国際社会全体の目標として、世界の諸問題を総合的に解決することが示されています。

●「ごみ」について学ぶイベントを開催

地球環境の悪化が深刻化する中、地域の一人一人が環境を意識し、持続可能な社会を実現する必要があります。その第一歩としてごみの削減活動(ゴミ活)や世界のごみ事情、分別方法などについて理解を深め、自分でできることについて考えるためのイベント「富士見ゴミ活トーク」を開催しました。



講師：坂野 晶さん
(一社)ゼロウェイスト・ジャパン代表理事
海外のNGOや企業で活躍した後、2020年より同社にて循環型社会のモデル形成・展開に取り組む。
2022年日経ウーマンオブザイヤー受賞



★こんな講演でした 講演で出題されたクイズや内容を少しだけご紹介します。

ごみについての○×クイズ

Q.日本のごみは80%以上リサイクルできている

A.正解は× 日本のリサイクル率は**20%**程度です

Q.世界で生産される食品の3分の1は捨てられている

A.正解は○ 世界の食品ロスは**年間約13億トン**。廃棄率は3分の1です。

Q.2050年には、海の中では魚よりプラスチックごみの方が多い

A.正解は○ 現在の海洋ごみの量は**1.5億トン**。多くは川を経由して市街地から流れ出したものです。



世界のごみ・資源の事情

- ・過去50年間でプラスチックの生産量は20倍に。2050年までに世界のごみは70%増加すると予測されています。
- ・1970年代には地球全体で1年間に生産する資源と消費する資源の均衡がとれていましたが、直近では1年間で地球1.6個分の生産資源を消費しています。



★このイベントで学ぶSDGsの目標

12 つくる責任
つかう責任



12.つくる責任 つかう責任

持続可能な消費と生産の様式を確立する目標です。

つくる側の企業の責任はもちろん、持続可能な社会のため、つかう側の私たち一人一人が、限られた資源の利活用に意識を持つことが求められています。

13 気候変動に
具体的な対策を



13.気候変動に具体的な対策を

ごみの焼却処理で発生する二酸化炭素(CO2)は、気候変動に大きな影響を与えており、激甚化する自然災害に繋がります。

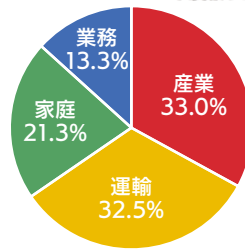
持続可能な社会のためには、ごみの削減=CO2排出量の抑制が求められています。

●脱炭素化 (CO2削減) に向けて

人類の活動により、類を見ない速度で地球温暖化が進行しています。

温暖化対策としての「脱炭素化の取り組み」はたくさんありますが、単純なCO2削減だけを指すのではなく、脱炭素と地域の課題解決の両方を達成することを目指す必要があります。

富士見町のCO2排出比率
2013年度排出量より



脱炭素施策

- ①エネルギー消費量の削減 (省エネの推進)
- ②エネルギー低炭素化 (再エネの活用)
- ③利用エネルギーの転換 (燃料転換)

●富士見町全体でSDGs・ゼロカーボンについて学んでいます

★第1回 富士見町ゼロカーボン推進セミナー ～脱炭素に向けたまちづくりの必要性について～



富士見町では、2050年度に二酸化炭素排出量実質ゼロ達成を目標に、その将来像やCO2削減目標、再生可能エネルギー活用施策の検討、実現に向けたロードマップ作成のためのゼロカーボン戦略調査を実施しています。

今回は、今後町のゼロカーボン推進の中核を担っていただく町内事業者や町商工会の皆さま、町職員を対象に開催しました。

★町職員向けSDGsセミナー

コロナ禍や人口減少など、目まぐるしく変化する情勢の中で、地域の将来についてSDGsの視点からもう一度考えるための研修を実施しました。

持続可能な地域実現のためには、業務の関連意識を持つことや、住民・各種団体・事業者との連携が必要となることを再認識しました。



●富士見町の取り組み (可燃ごみの減量化)

- ★家庭系可燃ごみの減量化目標を設定
「1人1日の排出量300g」
- ★コンポスト、生ごみ処理機の補助金により家庭から出る生ごみの自家処理を推進
- ★学校・保育園の給食残飯や調理くずなど、公共施設の生ごみをたい肥化し、畑等に活用

令和3年にたい肥化した生ごみの量は
約25トン

●森のオフィスの取り組み

- ★「GREEN COMMUNITY」のプロジェクトとして
コワーキングスペースから環境に負荷を与えない働き方を発信
- ★飲食店等の廃油から作成した廃油石けんの販売
やワークショップの実施
- ★リターナブル瓶の導入
(ペットボトル削減)



今後は「ごみをどう処理するか」ではなく**ごみを出さない社会**を目指すことが必要です。
普段からSDGsの視点を持ち、ごみの排出削減の意識を持っていきましょう。

●これからの取り組み

★ゼロカーボンに向けた補助金をご活用ください

町内住宅のエネルギーの自立化を促進するため、太陽光発電システムと蓄電システムの設置経費に対し、費用の一部を補助します。

※長野県が実施する「既存住宅エネルギー自立化補助金」の交付を受けた方に上乗せして、町からも補助金を交付します。

補助対象事業	長野県の補助金	富士見町の補助金 (上乗せ)
太陽光発電システムと蓄電システムの設置	20万円	10万円
蓄電システムのみ設置	15万円	5万円

★ごみや環境問題に関する映画を上映

11月下旬に、ドキュメンタリー映画「マイクロプラスチック・ストーリー—ぼくらが作る2050年—」の上映会を予定しています。

※詳細は、『広報ふじみ おしらせ版』でお知らせします。



©Cafeteria Culture 2022